

「商店街振興組合 元町クラフトマンシップ・ストリート」について



2006年4月1日土曜日、元町クラフトマンシップ・ストリーのライブタウン整備工事の完成を祝うオープニング・セレモニーが行われました。

元町ショッピング・ストリートと山手に挟まれた、元町仲通り、代官坂通り、水屋敷通り、汐汲坂通り、本牧通りに軒を連ねる店舗が、元町の新しい街づくりを目指して「元町仲通り会」を発足させたのは1994年7月のことです。開港以来、外国人向けの商品を作ってきた職人の住む街の「あきんど」たちが「こころの通う街づくり」のスローガンのもと、細い路地に車の行き交う裏通りの商店街に、子供やお年寄りが安心して暮らせる街づくりを実現しようと集ったのです。

この理念のもと、元町仲通り会は「元町仲通り地区街づくり協定」を作り、建替の際のセットバックによって歩道を広げ、電柱も将来の地下化を目指して後退させ、美しい街並を維持するための景観規制をつくり、数十年先を見越した街づくりの土台を作りあげたのです。ライブタウン整備工事の完成は、インフラ面でこれを支える最大のエポックでした。

ライブタウン整備工事に必要な法人化に、元町仲通り会は「商店街振興組合」という方式を選びました。これは、中小小売商業者の商業活動に限らず、大型店や銀行、一般住民も組合員に加えることで、地域の環境整備全体に取り組み、公共の福祉の増進に努めることを可能とするスキームだったからです。つまり、こうして誕生した「元町クラフトマンシップ・ストリート」(元町CS)は当初から、住民参加の街づくりを志向していたことになるのです。



その日、ひとつの大切な、そして遠大な計画の最大の山場となる事業を成し遂げた元町CSの組合員一人一人の生き生きとした姿、そして晴々しい笑顔が、街の中に満ち溢れました。この日のために、十年以上にわたる気の長くなるような助走期間、街づくり憲章、街づくり協定の制定に始まり、フードフェアによるイベント活動、法人化と、元町CSは地道な努力を積み重ねてきたのです。

そして、街づくりに終わりはありません。常に一步一步前進しながら、よりよい街へと、ひとりひとりが努力していかなければならないのです。そのためには、参加する組合員と住民の、One for all, all for one の気持ちが大切なのです。



元町CSはそのような志を持った人々の集まりなのです。改めて「街はそこで商いをし、そこに住む人々によって作られる」という当たり前の事実を痛感するのです。